

全都講習会 タイムテーブル

10:00~10:10	イントロダクション	技工士会
10:10~11:30	講演 ①	阿部伸一先生
11:30~12:00	標本室見学	
12:00~13:00	お昼休憩	
13:00~14:20	講演 ②	上田貴之先生
14:40~16:00	講演 ③	中島純子先生
16:00~17:00	質疑応答	

【重要なお知らせ】

本研修会は東京都保健医療局よりの委託事業となっております。
つきましては受講対象者は以下の方に限ります。

- ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員
- ② 学生
- ③ 東京歯科大学職員
- ④ 東京都在住または在勤の歯科技工士

【開催コード】

日技生涯研修基本研修課程申請中

【定員】

100名

*定員になり次第締切させていただきます。

【申込開始】

- | | |
|-------------------------|-----------|
| ① 一般社団法人東京都歯科技工士会（都技）会員 | 11月18日(月) |
| ② 学生、③ 東京歯科大学職員 | 11月20日(水) |
| ④ 東京都在住または在勤の歯科技工士 | 11月22日(金) |

【受講料】

800円

- *上記受講対象者①～③の方は都技にて負担しますので無料となります。
- *上記受講対象者④の方は会場でお支払いください。

【申込方法】

お申し込みは右の二次元コードからお申込みください。

- *上記オンライン申込をされますと登録したメールアドレスに自動返信されますのでご確認ください。
- *二次元コードが読み取れない方は下記アドレスまでご一報ください。

メールアドレス: togi-info@to-ginet.com

【お問い合わせ】

一般社団法人 東京都歯科技工士会

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 2-2-10 ヴィップ大塚香川ビル 4F
FAX 03-3576-5615 TEL 03-3576-5611
e-mail: togi-info@to-ginet.com
URL: <https://www.to-ginet.com>



都技サイト

Tokyo Master Course Science Lecture

都技生涯研修 2024

全都講習会

口腔の形態と機能を 回復する補綴装置を めざして

2024.12.22 SUN

10:00-17:00

会場

東京歯科大学水道橋校舎
本館13階 講義室・第一教室

講演 ①

技工サイドでイメージしたい加齢による形態と機能の変化

東京歯科大学解剖学講座主任教授 阿部伸一先生

講演 ②

オーラルフレイル・口腔機能の低下に対応する義歯のマネジメント

東京歯科大学老年歯科補綴学講座主任教授 上田貴之先生

講演 ③

顎補綴および口腔内装置による咀嚼・構音・嚥下機能へのアプローチ

東京歯科大学オーラルメディシン・病院歯科学講座准教授 中島純子先生

■一般社団法人 東京都歯科技工士会 主催

■東京都保健医療局 委託

講演① 10:10~11:30

技工サイドでイメージしたい 加齢による形態と機能の変化

近年の高齢社会により、これまでみられなかった歯槽骨の高度の吸収症例などが増加の一途をたどっています。これら難症例患者の口腔内で、義歯の形態はどうあるべきかについては、解剖学的な多くの要素を考慮しなければなりません。それは失われた顎骨に代わる義歯床の形態、人工歯の配列場所、歯肉の形態など様々です。総義歯による無歯顎治療での到達目標は、咀嚼、嚥下機能などを個々の患者が満足する形で再現することであると考えます。そこで本講演では、機能する義歯を作製するためには何を考え、どのような機能解剖学的な知識が必要であるのかについて考えていただきます。

口腔とは言うまでもなく空間です。この空間が歯を喪失した後、経時的に広がります。この原因は顎骨が徐々に吸収していくことに他なりません。この顎骨には筋組織をはじめ多くの軟組織が周囲を取り囲み、咀嚼器官としての口腔周囲を形作っています。顎骨は経時的に吸収するにも関わらず、周囲の軟組織は有歯顎時の形態を残し機能します（粘膜の変化などは除く）。デンチャースペースを模索する場合、「広がっていく進行性の空間を埋める」という考えだけではなく、周囲の筋組織をはじめとする軟組織が、スムーズに機能することも考慮することが重要となります。よって本講演のはじめに、顎骨の吸収の特殊性を解説し、次に咀嚼、嚥下機能に関わる顎骨周囲軟組織について、機能解剖学的な解説をさせていただきます。



講師 阿部 伸一 先生

東京歯科大学
解剖学講座 主任教授

【略歴】

1989年 東京歯科大学卒業
1993年 東京歯科大学大学院修了（歯学博士）
1994年 ドイツベルリン自由大学留学
2010年 東京歯科大学解剖学講座教授（現在）

非常勤講師など

日本歯科大学／九州大学歯学部／九州歯科大学／奥羽大学歯学部／千葉大学医学部／台北医学大学口腔医学院（台湾）客員教授／延世大学歯学部（韓国）訪問教授 他

所属団体

歯科基礎医学会理事／日本口腔インプラント学会代議員（基礎系指導医）／日本顎咬合学会評議員（指導医）／日本解剖学会学術評議員 他

講演② 13:00~14:20

オーラルフレイル・口腔機能の 低下に対応する義歯のマネジメント

高齢者では、義歯装着者が依然として多数存在し、義歯の製作や調整は日常臨床の中心の1つです。いわゆる義歯の難症例と呼ばれる状態は、顎堤の吸収が顕著であったり、上下顎の対咬関係に問題があったりと、従来から形態的な視点を中心に考えられてきました。しかしながら、オーラルフレイルや口腔機能低下という視点を義歯治療に取り入れることで、新たな問題点も見えてきます。

例えば、「食べにくくなってきた」と患者が訴えた場合、どのような原因が考えられるのでしょうか。義歯装着後の長期経過の中で、義歯や残存歯の状態は変化していきますが、それと同時に口腔機能も変化します。舌や口唇の機能が衰えることにより、咀嚼能力が低下することもあります。漫然と咬合接触状態や義歯床と粘膜面の適合状態のみで評価を行いますと、そのような機能低下を見逃すことになりかねません。

2018年4月の診療報酬改定では、「口腔機能低下症」が歯科の新たな病名に加われました。2024年4月1日に日本老年医学会、日本老年歯科医学会、日本サルコペニア・フレイル学会は合同で、「オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント」を公表しました。統一したオーラルフレイルのチェック項目（Oral frailty 5-item Checklist：OF-5）も提唱されました。OF-5は、残存歯数、咀嚼困難感、嚥下困難感、口腔乾燥感、滑舌低下の5つの質問から構成されており、2項目以上に該当するとオーラルフレイルと判定されます。

これらの考え方を、義歯の診療でどのように生かしていくのかについて、本講演で解説したいと思います。



講師 上田 貴之 先生

東京歯科大学
老年歯科補綴学講座 主任教授

【略歴】

2003年 東京歯科大学歯科補綴学第一講座助手
2007年 東京歯科大学有床義歯補綴学講座講師
2007年 スイス連邦・ベルン大学歯学部補綴科客員教授
2010年 東京歯科大学有床義歯補綴学講座准教授
2019年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座教授

所属団体

日本補綴歯科学会 理事・広報委員長・指導医・専門医
日本老年歯科医学会常任理事・指導医・認定医

講演③ 14:40~16:00

顎補綴および口腔内装置による 咀嚼・構音・嚥下機能へのアプローチ

口腔がんの治療予後の向上に伴い、地域社会で生活をされている口腔がんサバイバーが増加し、顎欠損や舌欠損を有する方の歯科治療が、大学病院など以外で行われる機会も増えています。一般的に、歯や顎などの欠損に対する補綴装置は、形態を回復することにより咀嚼・構音・嚥下機能の改善を図ります。一方で、顎や周囲軟組織の実質的な欠損を伴わない場合でも、口腔領域の舌や軟口蓋といった軟組織の活動性の低下により、咀嚼・構音・嚥下機能の障害が起こります。このような機能的な嚥下障害や構音障害は脳血管障害や神経筋疾患の患者にみられ、近年の摂食嚥下リハビリテーションの普及、口腔機能低下症という疾患の確立に伴い、顎補綴を起源とする補綴装置が応用されるようになってきました。

その代表的なものが、舌接触補助床（Palatal Augmentation Prosthesis: PAP）です。PAPは、舌の運動障害あるいはポリウム不足による構音および咀嚼、嚥下障害に対して、舌が接触できるような厚みを上顎の義歯床の口蓋部に持たせることで口腔機能改善を図る装置です。また、神経麻痺や手術に伴う軟口蓋部の挙上不全による鼻咽腔閉鎖不全に対する軟口蓋挙上装置（Palatal Lift Prosthesis: PLP）のニーズも高まっています。

口腔がんサバイバーの高齢化やPAPやPLPの対象となる患者さんは訪問歯科診療の対象となることも多く、地域歯科医療において顎補綴やこれらの補綴装置に対応できる歯科技工士、歯科医師が求められつつあります。本講演がその一助となれば幸いです。



講師 中島 純子 先生

東京歯科大学
オーラルメディスン・病院歯科学講座 准教授

【略歴】

2004年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面補綴学分野助手
2004年 防衛医科大学校歯科口腔外科助手
2008年 防衛医科大学校歯科口腔外科学内講師
2015年 サウスカロライナ医科大学（アメリカ）、Evelyn Trammell Institute for Voice and Swallowing, Visiting Scholar
2019年 東京歯科大学老年歯科補綴学講座講師
2020年 東京歯科大学オーラルメディスン・病院歯科学講座講師
2022年 東京歯科大学オーラルメディスン・病院歯科学講座准教授

所属団体

日本歯科補綴学会専門医・指導医・学術委員会委員／日本口腔外科学会専門医／日本顎顔面補綴学会 理事・認定医・広報委員会委員長・診療ガイドライン委員会委員・地域支援委員会委員／日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士・評議員／日本老年歯科医学会代議員・認定医・ガイドライン委員会委員・編集委員会委員・渉外委員会／日本嚥下医学会評議員